

# 20カ国旅して学ぶ

## インフィニティ国際学院

### 大谷真樹氏（元八学大）が学院長

## 日本の教育制度に一石

校舎も教室もなく、オンライン授業を個々に合った「国際標準」の高度な学びを得る、新たな教育システムが注目を浴びている。その一つ、今年4月に開校した通信制学校「インフィニティ国際学院」は、学校法人光星学院（八戸市）の子会社八戸学院グループが運営し、元八戸学院大学学長で、起業家の大谷真樹氏（58）＝同市出身＝が学院長を務める。同氏が「起業家としての集大成」と位置づける教育改革を具現化した同学院は、長年続く日本型教育制度に風穴をあけることができるか。

### 八戸学院グループが運営

八学大学長を6年間務めた後、大谷氏が取り組んだのが同学院開校。現在の教育システムを、富国強兵を目指した明治以降、約150年間変わらぬまま、インターネットが普及した国際化社会の現代には合わない」と指摘。その証明として、



フィリピンの施設で、オンライン授業を受けるインフィニティ国際学院の1期生（同学院提供）

国内企業、東京大学をはじめ、大谷氏が取り組んだことが驚くほど下がっていると言つ。また、あらゆる産業がポーターレス（境界や国境がない）となった現在、どう世界の人材と闘うべきか、その答えは「学校約20カ国を旅してフィリピンの先生も両親も持っている」と語る。

院生は「英語を学ぶ」ではなく圧倒的な情報量を得ることができる「英語で学ぶ」ことを身につけるため、1年目、フィリピンの同社関連語学学校に滞在して英語教育を受け、2年目は豊富な国際経験を持つ経営者、起業家、冒険家ら各分野の専門家の支援を受けながら約20カ国を旅してフィリピンなどを経験。3年目は進路の表現に向け、個別プログラムを自分で立案する。同時に、八洲学園大学国際高等学校（沖縄県）の通信制で、日本の高校卒業認定を取得することができるとも。



大谷氏の著書「2030に生き残るために 世界で学べ」

新たな教育システムの注目校のKADOKAWAなどが設立した通信制の「N高」（2016年開校）が、女子フィギュアスケートの紀平梨花選手らが進学したことで知られる。また、海外では世界のエリートが「一番入りたい大学」と言われる「ネルバ大学」米、14年創立、生活家電メーカー創業者とオーリック大学が設立した教育プログラムデザイン大学（英、17年創立）、専門学校「42」（仏、13年創立）が注目されている。

「おおたに、まき」1991年、八戸市生まれ。五所原高、学院卒業後、32歳までNECに勤務し、同社を退職してフジテレビ報道番組制作を経験後、インターネットを活用したリサーチシステムを開発しインフォプラント（現マクロミル）を創業。2019年から18年まで八戸学院大学長を務め、社会人向け「起業家養成講座」主任講師として多くの起業家を育てた。起業家のアカデミー賞といわれるアントレプレナーオブザイヤー2004年スタートアップ部門優秀賞受賞。2030に生き残るために「世界で学べ」（サンクチュアリ出版、8月1日発売）

本「の学歴 社会は世界標準の学歴」から30年後を取っていると指摘。「日本は既に先進国ではない」「世界の流れから取り残され、ガラパゴス化している」など、刺激的な言葉とともに国際的視点による人材育成の重要性を説く。

教育費用は海外研修費、寮費なども含め年360万円から。大谷氏は、教育こそ最も効果的かつ最強の投資とし「日本の教育が最も苦手な「変化」を恐れず、グローバル視点で未来を描ける人材が、待たなしの状態にある地方を救う」としている。

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです